

記録史料所在情報のインターネットによる 公開の問題点と課題

山田 哲好

国文学研究資料館・史料館

我国に伝来する記録史料、中でも近世・近代のそれは、世界的にも類をみない程膨大な量が伝来している。これらの記録史料は、戦後の史料保存運動の成果として各地に設立された文書館・史料館といった史料保存利用機関をはじめ、図書館、博物館、自治体史編纂室、大学研究室などでも記録史料の所在調査やその目録化が現在も進行中である。

史料館では我国の主として近世・近代の記録史料について、上記目録を基礎に史料群単位の所在とその概要情報を全国的な規模で集約し、多様な検索システムをインターネット上で公開する準備を進めてきた。しかしながら、全国的な規模での公開は我国では初めての試みであることと、さらにインターネット上での公開によって想起される様々な問題点が指摘された。

本報告は、歴史研究と史料の保存利用にとって必要不可欠な基礎データとしての記録史料所在情報の公開問題とその課題を提起しようとするものである。

Problems and perspectives of disclosing the locative information of archives

YAMADA, Tetsuyoshi

Shiryokan (Department of Historical Documents)
National Institute of Japanese Literature

Archival records kept in Japan, especially those from the early-modern and the modern ages, are said to be enormous without parallel in the world. These archives have been being surveyed and catalogued by archival institutions which were set up as a result of archive-keeping movement after the War as well as by libraries, museums, historical sections of local autonomies, and universities.

The Shiryokan has been compiling the locative information of such archival material based on the catalogues collected from all over the country and preparing to disclose it through Internet with multilateral retrieval system. However, it has been pointed out that there remain not a few problems in disclosing such information through Internet mainly because it is the first attempt in this country.

The present report focuses on the problems and perspectives of disclosing the locative information of archives, which must be indispensable and basic data for historical science and other purposes using archival material.

はじめに

本報告は、歴史研究と史料の保存利用にとって必要不可欠な基礎データとしての記録史料所在情報の公開問題とその課題を提起しようとするものである。

1 記録史料所在情報とは

我国に伝来する記録史料、中でも近世・近代のそれは、世界的にも類をみない程膨大な量が伝来している。

これらの記録史料は、戦後の史料保存運動の成果として各地に設立された文書館・史料館といった史料保存利用機関を中心に所在確認や目録化が進んできた。一方では、図書館、博物館、自治体史編纂室、大学研究室などでも記録史料の所在調査やその目録化が現在も進行中である。

そこで我国の主として近世・近代の記録史料について、史料群単位の所在とその概要情報を全国的な規模で集約し、多様な検索システムを2000年4月からインターネット上で公開する準備を整えていた。しかしながら、記録史料の所在と概要情報の全国的な規模での公開は、我国では初めての試みであることと、さらにWeb上での公開によって想起される様々な問題点が指摘された。

記録史料所在情報の情報源は、文書館などの史料保存利用機関、図書館、博物館、自治体史編纂室、大学研究室や研究者、個人などで公開された目録類であり、発行機関（者）と発行形態が多様であることから、これらの目録類の網羅的な調査や収集は容易ではない（1970年以降積極的に収集）。

2 史料館におけるインターネットによる史料情報公開の現状

2.1 館蔵史料情報

- ・文書群単位の概要情報（『史料館収蔵史料総覧』データ、公開）
- ・アイテム・レベルの史料情報（『史料館所蔵史料目録』データ）→史料群の階層構造を表示（試験運用中）
- ・仮整理目録データ（計画中）
- ・原本画像情報（計画中）
- ・原本テキスト情報（『史料叢書』データ、計画中）
- ・マイクロ収集史料情報（マイクロ史料目録データ、計画中）

2.2 史料所在情報 → 3

3 「史料所在情報検索」システムの現状と問題点

3.1 経過概要

- ・1970年～：史料所在情報の基礎となる史料目録類を中心に、全国的にその作成状況の調査を実施して、目録類を網羅的に収集(含：コピー)し、継続して史料館に集約できるシステムづくり
- ・科学研究費補助金によるプロジェクト
 - ①1985～87年度：科学研究費総合研究(A)、「近世・近代史料所在情報の収集及びその体系化に関する

る基礎的研究」、総額1,750万円

②1988～89年度：科学研究費研総合研究(A)、「史料所在情報の蓄積検索システムに関する研究」、総額1,490万円

③1990～1993年度、科学研究費一般研究(A)、「史料所在情報の集約とその解析的研究」、総額2,200万円

*上記の成果として『近世・近代史料目録総覧』(三省堂、453p,1992、約4,700タイトル、8,700冊収録)を刊行 →1999年度末現在 約6,500タイトル、13,000冊

・これらの目録を基礎にして史料群1件ごとの概要情報を採録

→[資料-1]「史料所在データシート」(A4版両面、当日配布) ←史料群単位の記述標準の一例

・諸外国の事例

<記録史料群目録記述の標準化>

①イギリス (MAD=A Manual of Archival Description、1986/MAD2、1989)

②アメリカ (APPM=Archives,Personal Papers,and Manuscripts:A Cataloging Manual for Archival Repositories,Historical Societies,and Manuscript Libraries,1983/APPM2、1989)

③カナダ (RAD=Rules for Archival Description、1990)

<国際標準化>

①「マドリッド原則」(「記録史料記述に関する原則についての声明」1992、国際文書館評議会記述標準特別委員会採択)

②「国際標準記録史料記述 一般原則」(ISAD(G)=General International Standard Archival Description,1994)

③「団体・個人・家のための国際標準記録史料オーソリティー・レコード」(ISAAR(CPF)=International Standard Archival Authority Record for Corporate Bodies,Persons and Families,1996)

<電子化>

EAD=Encorded Archival Description,1995、アメリカ →イギリス

3.2 「史料所在情報検索」システムの構築

・1993～1998年度：科学研究費研究成果公開促進費、「史料所在データベース」、総額7,615万円

・検索システム開発：1996～1998年度

・システムの概要

史料所在データを史料所在用D T D(Document Type Definition)に対応したフルタグS G M Lデータへ変換する。その過程で、データの誤りを検出し(エラーチェック)、エラー修正を行う。

フルタグS G M LデータからT e X形式データに変換し、組版、印刷を行う。これら一連の作業は、以下のサブシステムにより行われる。

イ.データチェックサブシステム

ロ.S G M Lデータ作成サブシステム

ハ.フルタグS G M Lデータ作成サブシステム

ニ.T e X形式データ作成サブシステム

ホ.T e X形式データ印刷サブシステム

→ [資料-2] 全体構成図

→ [資料-3] 史料所在データサンプル(オリジナル) ←当日配布

→ [資料-4] 史料所在データサンプル(SGML) ←当日配布

★「史料所在データシート記入及び記述マニュアル」、エラーチェックを含めた「史料所在データSGML化システム仕様書」作成

*当初メインフレーム上でのオンラインサービス →Web上での公開とする

→ [資料-5] 史料所在データ都道府県別入力件数一覧

3.3 「史料所在情報検索」システム

→ [資料-6] Web検索画面(簡易版、詳細版)

詳細版検索結果は当日配布

- ・ 検索項目の都道府県名、旧地名の旧国名、主な年代については、プルダウンメニューを設けた。都道府県名は北から順、旧国名は五十音順(相模国を相州で検索できない)、主な年代は統一表記の古い順とした。
- ・ 検索した件数が多い場合、さらに何度でも絞り込み検索を可能にした。
- ・ 検索文字列は、画面(赤反転文字)と印刷上でも識別可能にした。
- ・ 関係諸機関・各位の協力で、全国を対象に目録類を基礎にした史料情報の多角的な検索システムを構築できたことが成果

3.4 問題点

*インターネットによる公開を1999年4月を目途としたが、様々な問題があることが判明

∴. 我国では初めての試みであることから、公開してからのトラブルがあつては、作業の継続ができない理由から、インターネットでの公開について目録発行機関等へ照会

第1次公開可否照会→都道府県レベルの160機関

第2次公開可否照会→都道府県レベル以外約1,045機関

照会総件数=1,205件、回答件数511件(42.4%)

回答事例：@=史料館での要データの取捨選択、追記、加工、*=史料館で要再確認

<限定公開>

@館蔵史料に限る

@個人蔵は姓のみ公開

*個人蔵は史料館で公開許諾をとって欲しい

*個人の住所は、市区町村レベル以下を表示させないこと

@現在の諸条件(常に公開体制が十分でないなど)を明記

@系譜・略歴関係史料はいいが、土地所有や金銭貸借関係史料はプライバシーの関係上(個人)

@改訂(最新)版のみ公開

*公開データの全てを確認してから判断する(特に詳細版の解題・解説)

<非公開>公開データから除外、≠削除

・ 目録が部内資料であるため

・ 館での史料の所在が不明(大学図書館)

- ・市史編纂の目的で作成した目録であり、年数の経過と共に散逸が激しく、目録としての実効性を失っている
- ・授業の一環として作成したもので公開を目的としたものではない（大学研究室）
- ・公開体制の不備
- ・ひとり暮らしで高齢、対応できない
- ・個人蔵が多く、公開すると所蔵者にどのような影響が及ぶか予測不可能
- ・所蔵者の同意を得ていない
- ・寄託者の意向により
- ・個人情報の保護
- ・組織の休止、解散

総括：

- ・目録編集の目的と公刊条件との関係 →インターネットでの公開を前提にしていない
- ・インターネットでの公開についての危機感 →照会された場合の対応体制の不備、
目録編集組織の休止や解散

- ・史料の公開体制の不備
- ・個人情報保護

現状：個人に関する情報が本人の知らない間に収集・蓄積され、また本人の予想外の目的に利用される事態や、誤情報又は不完全な情報が利用・提供されている事態に、民間、行政部門が適正な保護について取り組み →個人情報保護条例

*以上の問題の解決策は？ 制限は永遠に不滅か？ 軽減することが可能か？

*目録編集の方針や目的、さらに意義を徹底的に検証、論議の必要あり

3. 5 今後の課題

- *特に詳細版（全項目、各項目は5個の and 検索可能）については、所定の利用申請を受け、特定のID番号とパスワード経由で利用可能とする。
- *本事業は、史料保存利用機関はもとより歴史研究者も注目しているため、中断は許されず、継続が大前提となる →事業予算措置(含人員)
- *情報源である全国各地で公刊される目録に精粗があることに起因し、本データにも精粗がある
∴科学的な記録史料の整理法と目録編成法、就中、史料群単位の記述方法の全国的な基準づくりが不可欠
- *入力済データの更新：所蔵者名の変更、所蔵関係の異動、住居表示の変更
→新規科研：「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム構築に関する研究」
- *アイテム(1点)レベルの情報提供 →目録本文を画像データ、原本の画像データ
- *目録類以外の文献からのデータの補完：翻刻(史料集)情報、研究文献情報
- *回答諸条件に対応するための検索システム改善、加工、追記
 - ①公開用（簡易版・詳細版共）の検索結果表示の改善
検索結果の表示で住所に関わるデータは、現状では以下のようにになっている。
松平家／東京都文京区***

／以下の表示を以下のように非表示にする。

東京都／〇〇区／以下非表示

〇〇道府県／〇〇市／〇〇区／以下非表示

〇〇道府県／〇〇市／以下非表示

〇〇道府県／〇〇郡／〇〇町／以下非表示

〇〇道府県／〇〇郡／〇〇村／以下非表示

〇〇道府県／島しょ／〇〇町／以下非表示

〇〇道府県／島しょ／〇〇村／以下非表示

なお、オリジナルデータは上記のように／で区切ってあるが、結果表示は現状表示のように／を表示する必要はない。

②公開用についてだけ「ID番号」の末尾に「：0」「：1」「：2」のデータを付与（これは史料館で付与）したものについて、以下の処理を可能とする。

「：0」＝簡易版・詳細版共公開

「：1」＝簡易版公開、詳細版非公開

「：2」＝簡易版・詳細版共非公開

③元データで¥と¥の間にあるデータを表示させないようにする。

例：山田¥太郎¥ この場合の表示を 山田[...] とする。

*国内に限らず、海外流出史料の所在情報をも包含

イ.1995・96年度、国際学術研究費、「在英日本史料の所在と現状に関する調査」、総額1,820万円

ロ.1997～99年度、国際学術研究費、「在欧日本史料の所在と現状に関する調査」、総額2,120万円、イギリス、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランス、イタリア

4 新規科研プロジェクト「歴史史料情報の共同集約と共有化に向けてのシステム構築に関する研究」の目的と概要（1999～2001年度）

本研究の目的は、我国における史料情報の電子化の可能性や方向性を検討しながら、情報ネットワーク環境をフルに活用し、全国で共有できる史料情報を提供するシステムを試験的に構築することにある。

上記の全国で共有可能な史料情報を提供するシステムを達成するために、

①各機関のネットワーク環境の現状を把握→史料保存利用機関のネットワーク構築が可能か

②ネットワーク環境での情報提供の可能性についての検討

→積極的な情報提供への取組が可能か、その場合各機関収蔵史料に限定するか

③当該地域の史料群の所在確認と整理状況の把握

④当該地域の整理状況に対応する電子化状況の把握

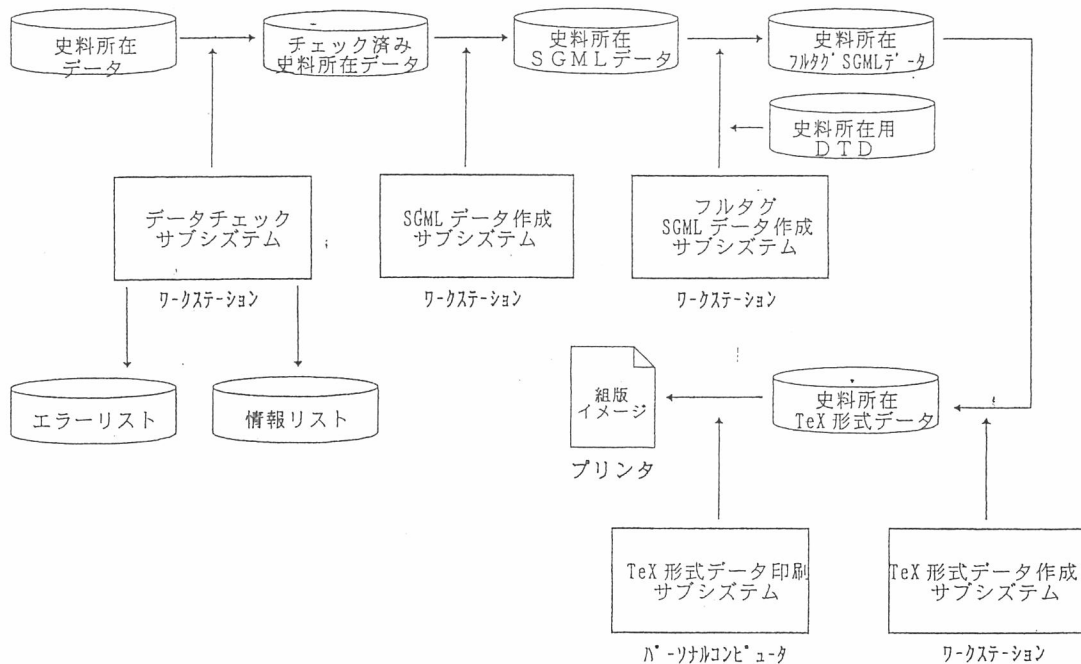
⑤システムのあり方の検討→集中型か分散型かの情報管理方法

⑥システムに応じた記述の標準化とマニュアルの策定

⑦試行運転し実用化を目標 ←着地点

4.1 全体構成図

2



5

史料所在データ都道府県別入力件数一覧

1999/03現在

北海道	62件				
青森	132件	岩手	867件	宮城	315件
山形	1,068件	福島	2,943件	秋田	1,244件
茨城	1,914件	栃木	3,170件	群馬	4,808件
千葉	3,960件	東京	3,561件	神奈川	7,337件
新潟	3,060件	富山	697件	石川	3,908件
山梨	548件	長野	3,316件	岐阜	1,190件
愛知	1,285件	三重	1,464件	静岡県	1,774件
滋賀	379件	京都	1,201件	大阪	773件
奈良	819件	和歌山	1,121件	兵庫	2,486件
鳥取	179件	島根	960件	岡山	1,142件
山口	2,124件			広島	1,422件
徳島	833件	香川	357件	愛媛	262件
福岡	2,669件	佐賀	776件	長崎	391件
大分	1,137件	宮崎	1,216件	鹿児島	352件
				高知	674件
				熊本	1,139件
				沖縄	
				総合計	79,692件

*上記件数≠史料群所在件数。一史料群が数次にわたり調査が行われたり、異なる機関等で調査が行われ、それぞれ目録が作成された場合、目録ごとにデータ化した件数。

◆◆◆ 史料所在情報・検索 ◆◆◆

6

◆◆◆ 史料所在情報・検索 ◆◆◆

総件数：8166

出所名:

旧地名: 国 郡 町村

国 郡 町村

国 郡 町村

国 郡 町村

国 郡 町村

上限年代:

下限年代:

主な年代:

出典:

出典請求番号:

検索 Data Search System -

1/2 ページ

◆◆◆ 史料所在情報・検索 ◆◆◆

出所名:

出所現住所: 都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

旧地名: 国 郡 町村

国 郡 町村

国 郡 町村

国 郡 町村

国 郡 町村

旧支配:

旧階層/職業:

関係地: 都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

所蔵者:

所蔵者住所: 都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

都道府県 都市 区町村

検索 Data Search System -

2/2 ページ

検索結果一覧

●キーワード:

(1~10/1043件)

検索条件: キーワード: 検索範囲:

絞り込み条件 AND を含む 出所名

[新規検索](#) / [検索条件変更](#)

- 松平家／東京都文京区小石川丸山町掘倉城跡
寛元01年～明治38年> 中世, 安祿, 江戸後／光西寺松井家文書目録／ 213.4-A129
- 川鍋家／千葉県印旛郡白井町折立
嘉永01年～大正03年> 明治／收藏資料目録2 小谷三志園係資料目録／ 213.4-A121-002
- 川鍋勘左衛門＊／千葉県印旛郡白井町折立
嘉永01年～明治24年> 江戸後, 明治前／録ヶ谷の古文書／ 213.5-AC023
- 大河内家／千葉県夷隅郡大多喜町大多喜
文政13年～昭和戦後> 明治前／〔上総国大多喜 大河内家文書目録〕／ 213.8-AC018
- 大久保家／神奈川県小田原市城内
江戸～不明> 江戸／相生市史編纂資料目録集 第七号／ 216.4-A046-007
- 森川家／千葉県千葉市生実町
寛永14年～明治32年> 江戸後／生実藩主森川家旧蔵史料目録／ 213.5-A042
- 佐倉順天堂／千葉県佐倉市本町
文久02年～明治16年> 江戸後／千葉県古文書調査目録 昭和46年度／ 213.5-A063-002